

埼玉県立近代美術館MOMASのとびら“み～つけ!”

「フワリつばさで 鏡の国を飛んでみよう!!」

2019年3月23日(土)13:30～15:00 埼玉県立近代美術館 創作室にて(参加者:未就学児15名、大人14名)

SMF今年度最後の美術館連携事業

埼玉県立近代美術館のワークショップ「MOMASのとびら“み～つけ!”」を行いました。“み～つけ!”は未就学児と保護者を対象とした親子プログラムです。講師は美術家の加藤典子さん。北浦和で長年に渡り、加藤こどもの造形教室を開いています。子供のやりたいことやできること、感受性の豊かさを知り尽くしています。さて、今回のワークショップには、子供達をワクワクさせるどんな仕掛けがあるのでしょうか。

つばさのイメージを広げよう!

春は羽ばたいていく季節です。「みんなが飛ぶとしたら、何があつたら飛べると思う?」この質問に「羽があつたら飛べる!」と答える子供達。「いいですね。」「色んなつばさがあるけど、見たことあるかな?」鳥の写真を見せながら問い掛けるど、「スズメだ!知ってるよ。」「白鳥、見たことあるよ!」と、子供達は笑顔で答え、加藤先生との距離を縮めていきました。



遊びながら、感じてみよう!

「飛ぶってどんな感じかな?やってみようか!」ここで登場したのはお花紙!お花紙を頭の上に掲げて手を離すと、ひらひらとゆっくり舞い降りてきます。パパやママが落としたお花紙のキャッチを始め、子供達は大はしゃぎ。遊びながら浮遊感を体感しました。



やった!とんだ!

次に用意されたのは折れ線が付いたA4用紙。どう

やら紙飛行機になるようです。初めて紙飛行機を折る子も多いのですが、パパやママが優しく教えてくれます。これは親子プログラムならではの光景!紙飛行機が完成すると、「みんなで飛ばしてみよう!」と声がかかります。創作室の端に並んで一斉に飛ばしました。「わ～、飛んだ!」子供達は飛んでいく紙飛行機を目で追いながら大喜び。なんだか自分まで飛んだ気分になったようです。

世界に一つだけのつばさができたよ!

さあ、いよいよ製作です。「この白いつばさに、クレヨンやマジックで模様を描いたり、色んな材料を貼り付けたりして、一人一つのつばさを作ります。」加藤先生の実演を見つめながら、子供達の創作意欲はMAXです!材料コーナーにはお花紙や折り紙の他、セロファンや梱包材など、子供心をくすぐる材料が一杯。材料選びもワクワクです。お気に入りの材料を手に取り、ハサミで切ったり丸めたりしながらつばさに貼っていきます。描いたり貼ったりを繰り返し、世界に一つだけのつばさができあがりました。でも、つばさが一つだけでは飛ぶことはできませんよね。「何を使ったら、二つに見えるかな?」この難問をじっくり考えます。すると、「鏡?」と声があがりました。大正解!つばさを鏡に貼ることで、羽ばたいてフワリと浮いているように見えるのです。



これ、きれい!



見て、できたよ!

鑑賞会「鏡の国を飛んでみよう!」

完成したつばさを、ミラーシートを貼ったガラス窓に貼り付けました。羽ばたいたつばさを見つめ、子供達が「やったー!」と喜びのジャンプを始めました。心から嬉しいと、自然とこうなるんですね!

「どこへ飛んでいくのかな?」鏡の国となった美術館の窓には、29人の夢を乗せたつばさが羽ばたいていました。



きれいだね!

夜になると

MOMASのとびらに参加してみて(感想)

- じぶんが そらに まいたちそうだった。(6才)
- 夢中で作っている娘がみれて、とても良かったです。もちろん、私も夢中になりました。(ママ)